

かわむらこどもクリニックNEWS

Volume 11 No 11

124号

平成15年11月1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

こども病院オープン

院長

皆さんだけでなく、我々小児科医が待ちに待った宮城県立こども病院が、11月11日にオープンします。皆さんはこども病院に対してどんなイメージを持っていますか？

まずは、設立までの経緯を簡単に示します。小児科医の団体である宮城県小児科医会が平成4年に設立の提言を行いました。その後、宮城県小児総合医療整備総合基本計画 - すべての子どもにいのちの輝きを - が取りまとめられ、こども病院の設立にゴーサインが出されたのです。この陰には20万人近いの県民の方々の署名陳情による後押しがあったことは、皆さんご承知の通りです。

こども病院の必要性については、平成9年2月号の記事を引用（一部略）します。「レントゲンや検査の器械はもともと大人専用で作られています。検査の台に昇ることや検査のための採血量を何とか工夫して使っているのです。トイレにしても同じで、子供のためのトイレを用意しているところはあまりありません。健康なら我慢すればいいのですが、病気の子どもたちです。また総合病院の中での小児科の立場は決してよいものではありません。出生率が低下し、子どもの数が減少し入院患者の数が減ってきているのです。東京などでは小児病棟が閉鎖された話が聞こえてきます。動けない子どもばかり入院しているわけではありません。安定期に入れば子どもは遊び回るので。大人と一緒に遊ぶこともできません。でも遊ぶ場所が無い病院もあるのです。入院が長期になれば、学業の問題や精神的な問題も生じてきます。ケアするための人たちも必要となってくるのです。そこまで考えると、やはり子ども専門の病院が必要となるのは当たり前のことです。」

実際の内容について少し説明しましょう。東北で初めてのこども病院には、二つの大きな理念があります。一つは基本理念である「すべての子どもにいのちの輝きを」であり、もう一つは病院の設計理念である「元気でるファミリーホスピタル」です。この理念に沿って、今後運営されていくのです。病院には16の診療科があり、病床は160床



11月のお知らせ

- ・宮城野区3歳児健診のため
診療時間変更 11月14日（金）
14:00～16:30 休診
- 健診・予防接種はありません
- ・北部診療所 小児科担当
11月30日（日）



です。しかし今回一度にオープンするのではなく、段階的にオープンし、2004年にすべての診療科病床が揃うことになっています。主な役割は、三次医療です。

医療には我々開業医

が扱う一次医療、入院が必要な二次医療、高度医療である三次医療に分けられます。こども病院は、専門性が高く、より高度の医療である三次医療の分野を担当することになっています。そのため受診する際には、医療機関からの紹介状が必要になります。カゼをひいたから、熱が出たからといって、簡単に受診するところではないし、できないのが現状です。こども病院には、多くの重症な子どもたちが収容されます。中には病気に対する抵抗力が弱い子どももいます。となれば、簡単に感染症（伝染する可能性のある病気）を受け入れることが難しいことは、お解りになるとおもいます。また、段階的オープンのため開院時には、医師やスタッフの十分な余裕はありません。これも急患を受け入れられない理由の一つになっているのです。

このように、こども病院はいつでも診てくれるようなコンビニ病院（この表現は嫌いですが）ではありません。この記事を読んでごっかりされる方、ご支持を頂いた皆さんは不満に思うかもしれませんが、しかし、この病院によって多くの子どもたちが救われ、重症な子どもたちでも良い環境での入院生活が提供できることは事実です。

もちろん将来的には救急の対応も考えているようですが、現時点では皆さんがお持ちのイメージと違っているかもしれませんが、しかし、未来をにう子どもたちのための第一歩であることには間違いありません。こども病院の設立の目的を理解して、暖かく見守ってくれるようお願いします。



麻疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻疹のワクチンを』

読者の広場

先月頂いたメールは16通と少なめでした。しかし印象に残るようなメールを頂いたので、紹介します。旅行中に病気になり、何度かメールをやり取りした宮城野区の毛利さんからのメールです。「宮城野区の毛利です。先週日曜日のメール以来すっかりお世話になった涼楓の具合は、お陰様で（本人曰く）完治し、元気に遊べるようになりました。旅先での思わぬ病気に、先生とメールできたことが何よりの支えでした。患者とのメールの時間は、先生にとっては休む時間をけずるようなものなのに、一患者のメールに丁寧に対応していただき、心から感謝しております。沖縄まで、点滴をしに行ったような旅でしたが、川村先生のありがたさを再確認できたとし、沖縄の人々の暖かさにふれることができたし、見方を変えれば、ただの観光旅行以上に有意義でした。ますます寒くなり、毛利家がかわむらこどもクリニックに出発する回数が増えると思います。これからは、先生が九時に診察にいらっしやらないときなど、きっと我が家のように先生の助けを求めてメールしてきた人に対応しているのかなと気長に待てると思います。明日は康聖の9か月健診日です。といっても、喘息のような咳がひどいし、熱も上がってきたので、健診ではなく患者として何う可能性のほうが高いのですが、よろしく願います。」。今回のこのメールを頂くまで、5通のメールを頂き、やり取りしました。少しでも、心の支え慣れて、本当に良かったと思っています。もう一つは宮城野区の田中さんからのものです。「昨日（4日）嘔吐を繰り返して伺った田中なおきの母親です。昨晚就寝前に飲んだ薬を夜中吐きだしたものの、今朝は頬に赤みがさし、挨拶もしっかりと起きてきました。昨日病院に行ったときには青白くふらふらだった子が一日でこんなに変わるなんて、すごい！。点滴の威力もさることながら、先生の処置、看護婦さんたちの助言には頭が下がる思いです。なかでも婦長さんの助言は心に響きました。我が子を衰弱させたのは他にもない私の行為だったのです。嘔吐する子供に水分を与えてはいけなかったのです。連休明けのそれも夕方、混雑しながらも決して取り乱すことなく的確に仕事をこなす姿にプロを感じました。私も今は育児休業中ですが、復帰をすれば職業人としてプロ意識を持たなければいけません。子供を通してまだまだ学ぶことが多いようです。とにもかくにも息子が元気になりましたこと、ありがとうございました。お忙しい先生のことですから、返信は期待しないで待っています。」。こんなお褒めの言葉、とても有り難いことです。ここのところクリニックは混雑していますが、混雑してもプロ意識を持って対応に当たりたいと思います。ありがとうございました。



院内の改装に関しては、皆さんにもご迷惑をおかけしました。印象はいかがでしょうか？。10年目の節目として、多少きれいになったようです。診察室の照明がかなり明るくなり、病院全体も明るくなったような気がします。院長はずいぶん古くなりました。スタッフもいつの間にか少し古くなってきました（失礼！？）。院内の改装に合わせて、気持ちを新たに持って診療に当たりたいと思います。

10月の後半からかなり混雑してきています。これから、ますます忙しい季節になります。待ち時間や駐車場で皆さんへご迷惑ををお掛けすることも多いかと思いますが、よろしく願います。

お母さんクラブの御案内

「インフルエンザ3 ちょっと怖い病気?!」

11月20日（木）14:00～ 福沢市民センター 会費200円

今年も、そろそろインフルエンザの季節です。インフルエンザは重症な合併症があり、普通のカゼと区別して考える必要があります。どんな病気なのか。なぜ、毎年話題になるのか。そしてSARSは大丈夫？。対処法は子どもの病気に全てに共通し、役立つこと請け合いです。今年も、インフルエンザについて勉強してみましよう。

予防接種のお知らせ

インフルエンザの予防接種の予約受け付けます。接種は10月中旬以降の予定です。13歳以上は原則1回です。また13歳未満では、1～4週間の間隔で2回接種します。接種年齢は生後6ヶ月以降です。

接種料金（1回） 3000円＋消費税

先月に続き、水痘、おたふくは、かなり減少傾向です。溶連菌感染症、多少増加傾向です。夏カゼの一つである、手足口病が、まだ残っています。気温の変動差が大きいためか、喘息も先月同様目立っています。また、喘息と同じような症状の気管支炎も多く、咳が続くことが特徴です。一家全員で罹っていることも多いようです。最近マイコプラズマ肺炎も増加しているようです。マイコプラズマ肺炎は発熱を伴うことが多いのですが、止りにくい咳だけのこともあります。レントゲン検査で疑い、血液検査で確認することが診断に結びつきます。

編集後記

こども病院がオープンし、宮城県にも新しいこどもの医療の風が吹き始めました。ほんの始まりかもしれませんが、応援したいと思います。ボランティアなど多くの協力が必要です。皆さんも応援よろしく願います。



10月の感染症の集計

